

「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会WG」設置概要

1. 概要と目的

平成 25 年 5 月に閣議決定された第三次循環型社会形成推進基本計画において、リサイクルに比べ取組が遅れているリデュース・リユースの取組強化が謳われており、特に、リユースについては主要な循環産業の一つとして位置づけ、リユース品が広く活用されるとともに、リユースに係る健全なビジネス市場の形成につながるよう取組を進めていくことが求められている。

容器包装の分野においてもこれらの取組を進める必要があり、リターナブル容器の代表例であるガラスびんのリユース推進が期待され、現在存続しているびんリユースの基盤を維持し、新たな市場を開拓することが必要とされている。

環境省では、平成 22 年度から「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」(以下「検討会」)を開催、平成 23 年度には、びんリユースシステムの現状把握及び課題や成立条件の整理し、びんリユースの推進に向けた方針「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会取りまとめ(平成 23 年 10 月)」(以下、検討会取りまとめ)を取りまとめ、平成 24 年度以降、検討会取りまとめをもとに各種支援・事業を進めているところである。

平成 22 年度から事業を開始し、5 年目を迎えることから、これまでの取組状況を再整理・点検し、今後の取組方針を改めて検討する必要がある。平成 27 年度事業においては、検討会のもとに下記 2 つのWGを立ち上げ、テーマ別の検討を行い、今後のびんリユース推進に向けた方策・方針を検討した。

【びんリユースシステムの在り方に関する検討WG】

- ・検討会とりまとめ(平成 23 年 10 月)を踏まえたこれまでの取組状況を再整理・点検し、今後のびんリユースシステムの在り方に関して検討、方策・方針の検討を行う。
- ・既存のびんリユースシステムの維持・拡大、新たなびんリユースシステムの構築に関する検討のため、リユースのためのびんの規格化、市町村が回収する資源ごみからのリユースびん利用、宅配食・通信販売等におけるリユースといった観点より検討を行った。

【びんリユースを中心とした 2 R ライフスタイル検討WG】

- ・第三次循環型社会推進基本計画において 3 R 型ライフスタイルの推進が謳われており、2 R の取組を進めるためには消費者のライフスタイルの変革が求められている。ガラスびんのリユース促進はライフスタイルの中に位置づけ、推進していくことが望ましい。
- ・びんリユースの推進に向けては、ガラスびんそのものの魅力を知ってもらい、利用促進が図られる必要がある。その上で、ガラスびんをリユースすることで環境負荷低減に繋がる利用用途においては、リユースを促進していくことが求められる。
- ・消費者の生活利便性を高める観点からのリユースびんの活躍場面、2 R ライフスタイルにおけるガラスびんの位置づけ等を検討し、消費者に定着させていくための情報発信方策について検討を行った。

2 . WG の設置概要

2.1 びんリユースシステムの在り方に関する検討WGについて

(1) 具体的な検討項目

検討会とりまとめ（平成 23 年 10 月）を踏まえたこれまでの取組状況を再整理・点検し、今後のびんリユースシステムの在り方に関して検討、方策・方針の検討を行う。

既存のびんリユースシステムの維持・拡大、新たなびんリユースシステムの構築に関する検討のため、リユースのためのびんの規格化、市町村が回収する資源ごみからのリユースびん利用といった観点より検討を行う。

< 検討事項 >

運搬・選別の効率化、消費者認知度の向上につながるリユースびんの規格の検討
市町村におけるリユースびん回収の推進について
宅配・通信販売等におけるびんリユース推進について

(2) WG メンバー

座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授
委員	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
	中井 八千代	容器包装の 3 R を進める全国ネットワーク 副運営委員長
	松野 正太郎	名古屋大学環境学研究科 特任講師
	幸 智道	ガラスびん 3 R 促進協議会 事務局長

（座長以外五十音順、敬称略）

(3) スケジュール

【第 1 回びんリユースシステムの在り方に関する検討WG】

・平成 28 年 2 月 1 日（月）13 時 30 分～15 時 30 分

< 議題 >

・検討会取りまとめを踏まえた、これまでの取組整理
・今後のびんリユースシステムの在り方に関する意見交換

【第 2 回びんリユースシステムの在り方に関する検討WG】

・平成 28 年 3 月 3 日（木）10 時～12 時

< 議題 >

・リユースびんの規格の検討、市町村におけるびんリユースの実態について
・今後のびんリユースシステムの在り方に関する意見交換

2.2 びんリユースを中心とした2 Rライフスタイル検討WG

(1) 具体的な検討項目

第三次循環型社会推進基本計画において3 R型ライフスタイルの推進が謳われており、2 Rの取組を進めるためには消費者のライフスタイルの変革が求められている。ガラスびんのリユース促進はライフスタイルの中に位置づけ、推進していくことが望ましい。

びんリユースの推進に向けては、ガラスびんそのものの魅力を知ってもらい、利用促進が図られる必要がある。その上で、ガラスびんをリユースすることで環境負荷低減に繋がる利用用途においては、リユースを促進していくことが求められる。

消費者の生活利便性を高める観点からのリユースびんの活躍場面、2 Rライフスタイルにおけるガラスびんの位置づけ等を検討し、消費者に定着させていくための方策を検討する。

< 検討事項 >

- ・ガラスびん、ガラスびんリユースを取り巻く現況について
- ・びんリユース推進に向けた消費者に対する情報発信方策について

(2) WG メンバー

座長	幸 智道	ガラスびん3 R促進協議会	事務局長
委員	石渡 美奈	ホッピービバレッジ株式会社	代表取締役社長
	山本 峰子	ガラスびん応援隊	副部長
	山本 義美	びん再使用ネットワーク	事務局長
	吉永 茂樹	日本ガラスびん協会	専務理事

(座長以外五十音順、敬称略)

(3) スケジュール

【第1回 びんリユースを中心とした2 Rライフスタイル検討WG】

- ・平成28年1月18日(月)10時~12時。

< 議題 >

- ・ガラスびん・リユースびんに関する消費者の意識(既往調査より整理)
- ・2 Rライフスタイルにおけるガラスびんリユースの位置づけ・在り方の論点(案)
(生活利便性を高める観点からの可能性など)

【第2回 びんリユースを中心とした2 Rライフスタイル検討WG】

- ・平成28年3月14日(月)14時~16時

< 議題 >

- ・ヒアリング(日本ガラスびん協会におけるガラスびんの広報・PR活動の概要)
- ・消費者のリユースに関する協力意識アンケート結果について
- ・2 Rライフスタイルにおけるガラスびんリユースの位置づけ・情報発信方策について

(以上)